



海外神社跡地のその後

韓国济州島の海外神社跡地調査報告

渡邊 奈津子

(非文字資料研究センター 研究協力者)

2014年2月5日から7日、韓国济州島の海外神社跡地13社の調査を行った。

同行者は、中島三千男（非文字資料研究センター研究員）、沈癸昊（济州国際大学教授）、金泰順（日本常民文化研究所特別研究員）、諸葛衍（大学院歴史民俗資料学専攻科博士後期課程在学）の4人である。

調査結果は表1の通りで、13社の跡地を確認した。济州島には『神道史大辞典』（藺田稔・橋本政宣編、2004年、吉川弘文館）巻末付表、佐藤弘毅「終戦前の海外神社一覧」によれば、12社の神明神祠と楸子面に神祠が1社建てられたことが分かるが、『大陸神社大観』（嵯峨井建復刻監修、2005年、ゆまに書房）から、旧左面には2社の神明神祠が建てられ、合わせると济州島には14社が創建されたことが分かった。楸子面の神祠は船で移動する必要があり、調査日数の関係から今調査では対象としていない。以下、調査順に報告する。

涯月面神明神祠：現在は涯月邑の保健所が建っており、敷地入口と敷地周りに松の木が植わっている。神祠が

あった当時、東隣に小さな保健所と学校が建てられていたが、光復後、保健所が神祠跡地に、学校は神祠跡地の西隣に移動した。

翰林面神明神祠：現在は翰林教会の敷地が建つ敷地内の碑に、別の場所にあった教会の「旧聖殿」が1945年7月6日、アメリカ軍の空襲により爆破され、1946年12月12日、「前日本国神社基地」に「聖殿定礎新築」した旨が刻まれている。鐘と聖殿には神祠の礎石が使用された。

大静面神明神祠：現在は山林となっており、墓地がある。遺構は見つからなかった。付近には日中戦争期に関東第58軍団が駐屯し、飛行場が存在したこと、また济州島に建てられた神祠に続き2番目に大きな神祠であったという証言を得た。

安德面神明神祠：跡地は民家が建つ小さな広場のような芝地になっている。付近に住む「アマテラス」という言葉を覚えておられた男性によれば、現在南側には安德初等学校があるが、神祠があった当時は尋常小学校であったという。西側には小高い山が見え、南側の町を見下ろ

表1 济州島調査海外神社一覧（設立許可年順）

	旧支配地名	神社名	旧鎮座地	現在地	社格	設立許可年
1	全羅南道济州島	济州邑神明神祠	济州邑	济州市	神明神祠	1931（昭和6）年12月1日
2	〃	旧左面神明神祠	旧左面	旧左邑金寧里	神明神祠	1939（昭和14）年2月
3	〃	旧左面神明神祠	旧左面	旧左邑細花里	神明神祠	1939（昭和14）年2月
4	〃	涯月面神明神祠	涯月面	涯月邑涯月里441-3	神明神祠	1939（昭和14）年2月25日
5	〃	大静面神明神祠	大静面	大静邑上幕里	神明神祠	1939（昭和14）年2月25日
6	〃	安德面神明神祠	安德面	安德面和順里1150	神明神祠	1939（昭和14）年2月25日
7	〃	中文面神明神祠	中文面	西帰浦市中文洞1498	神明神祠	1939（昭和14）年2月25日
8	〃	朝天面神明神祠	朝天面	朝天邑朝天里新北路236-2	神明神祠	1939（昭和14）年2月25日
9	〃	城山面神明神祠	城山面	城山日出峰	神明神祠	1939（昭和14）年2月25日
10	〃	南元面神明神祠	南元面	西帰浦市南元邑	神明神祠	1939（昭和14）年2月25日
11	〃	西帰面神明神祠	西帰面	西帰浦市	神明神祠	1939（昭和14）年3月22日
12	〃	表善面神明神祠	表善面	表善面表善路	神明神祠	1939（昭和14）年3月23日
13	〃	翰林面神明神祠	翰林面	翰林邑翰林里1284	神明神祠	1939（昭和14）年3月4日

※1 『神道史大辞典』（藺田稔・橋本政宣編、2004年、吉川弘文館）巻末付表、佐藤弘毅「終戦前の海外神社一覧」をもとに作成。

※2 神社名は、津田良樹・中島三千男・金子・川村武史「旧朝鮮の神社跡地調査とその検討—全羅南道、和順郡を中心に—」（『年報人類文化研究COEプログラム研究推進会議』）に倣い、旧鎮座地に社格を組み合わせた。

※3 祭神は『大陸神社大観』（嵯峨井建復刻監修、2005年、ゆまに書房）による。また同書によれば、旧左面に建てられた2社の設立許可年（本書その翌日の25日となっているが、鎮座地が「旧左面」までしか判明しないためそれぞれ設立許可日を限定することができない）。

せる見晴らしの良い場所だった。

中文面神明神祠：跡地には現在、中文教会が建っている。教会の建物は坂を上った先に建ち、西隣に保健所が建っている。教会建物と保健所に挟まれた道が参道であり、鳥居が建てられていたという。教会建物の北面は駐車場と、駐車場を囲んで修女院や倉庫など建物が建っているが、修女院と倉庫の間辺に社殿があったとのことである。駐車場と教会の周りには、松の木が数本植わっていた。

朝天面神明神祠：現在社殿跡地には、農協のスーパーマーケットが建てられている。朝天里の敬老堂老人会長である男性から、当時は参道の両側に広場があり、桜並木や松の木、鳥居、灯籠があったという証言を得られた。広場では光復後、五日市が開かれ、現在は駐車場になっている。

旧左面神明神祠 (現 金寧里)：現在は金寧中学校が建つ。社殿跡には校舎が建ち、その建物に向かって参道であったとされる長く真っ直ぐな道が残る。当時は参道を挟んで松並木があったというが、現在でも松の木がその道の両側に植わっている。

旧左面神明神祠 (現 細花里)：ここでは、話者から情報を得ることができなかったが、跡地は青年団の建物が建てられているところで、工事中であった。小高く町を見渡せるような場所で、建物裏手は海に面している。

城山面神明神祠：現在、観光地として賑わう城山日出峰に建てられたという。跡地と見られる広々とした芝地には、ホテルが建設されたとのことだが、今は何も建てられていない。海からほど近く、城山がそびえる。

表善面神明神祠：話者によると、現在表善中学校が建つ場所の、近くの芝地が跡地とされる。中学校が見える場所で、道に面しているが、当時はその場所に川が流れていたとのことである。

南元面神明神祠：西帰浦市の南元中学校が建っている。校舎建物近くにある小高くなっている林が跡地とのことだった。その場所に行くための道は松並木であった。ここに建てられたのは奉安殿であったという可能性もある。

西帰面神明神祠：現在は、西帰浦市の西帰浦気象台が建っている。南には海が広がり、海に面した道路から北へ当時は参道であった急な階段を上った先に建っていたとされる。大変見晴らしのいい場所であった。

済州邑神明神祠：済州邑神明神祠は設立許可が済州島内で最も早い時期のものである。光復後に建てられた済州中央協会の跡地で、済州道中央気象庁の新庁舎を建設するために現在は発掘調査中であった。急な階段や坂を上った先の場所で、町を一望できる。階段を下りた先は交通量の多い道路に面し、河川が流れている。

以上、済州島の海外神社は、その多くが島の海岸線沿いの道路からほど近い、小高い場所に建てられたようだということが分かった。そのような場所は、調査中程度々耳にした「いい場所」であったと思われる。町を見渡せ、気象台が建つような、「いい場所」が押さえられたのだろう。ジンジャオカという呼び名が各地で複数の話者から聞いたことも興味深い。また、当時学校の近くに建てられた神祠は現在も学校敷地やその付近の土地であったりするのだが、跡地に教会や保健所が建てられるという特徴を見ることができた。

本稿では、海外神社跡地の現在を中心に状況を報告するとどめたが、今回の調査では、各地で神祠があった当時や光復後の跡地の変遷について、話者をはじめ調査地の方々のご協力のもと、貴重な証言を得ることができた。この成果は、年報『非文字資料研究』第11号で報告する予定である。

最後に、今回、現地で同行してくださった済州国際大学の沈揆昊教授が、調査中だけでなく、綿密に事前調査や話者との交渉等の下準備をしてくださったことで、限られた時間の中で非常に速やかに島内全ての神祠跡地を巡ることができた。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

祭神	現況
天照大神	済州道中央気象庁新庁舎建設予定地(発掘調査中)
天照大神、明治天皇	金寧中学校
天照大神、明治天皇	青年団の建物(工事中)
天照大神、明治天皇	涯月邑保健所
天照大神、明治天皇	山林、墓地(小さな丘)
天照大神、明治天皇	民家、芝地
天照大神、明治天皇	中文教会、中文保健所
天照大神、明治天皇	スーパーマーケット
天照大神、明治天皇	城山日出峰、広い芝地
天照大神、明治天皇	南元中学校
天照大神、明治天皇	西帰浦気象台
天照大神、明治天皇	表善中学校
天照大神、明治天皇	翰林教会

のための非文字資料の体系化』第3号、2006年3月、神奈川大学21世紀中では「創立」とされている)に関して、1社は2月24日、もう1社は